

第1章 目的と位置づけ

この章では、本方針の策定の背景・理念・目的のほか、本方針と札幌市の関連計画との関係性などについてまとめます。

1-1. 方針策定の背景・理念・目的

1) 策定にあたって

札幌市が平成28年（2016年）に策定した第2次都心まちづくり計画では、都心で展開される多様な活動や個々の開発の展開を有機的に結び付け、目標実現に向けた様々な取組を促進するための基軸として、中心となる通り及びその周辺を含めた範囲を、都心²のまちづくりにおける「骨格軸」と位置付けています。

「はぐくみの軸」は、この骨格軸の一つである「大通及びその周辺」のことであり、「札幌のまちを形成する根幹となる歴史を備える東西軸として、潤いあるみどりを中心に、札幌の都市文化や新たな価値をはぐくむ空間の創出」を目指すこととしています。

「大通及びその周辺のまちづくり方針—札幌都心はぐくみの軸強化方針—（以下、「本方針」という。）」は、はぐくみの軸の将来像や取組の方向を明確にし、市民・企業・行政などがそれを共有して、協働でまちづくりを展開していくために策定するものです。

2) 背景

札幌市は令和4年（2022年）8月に市制施行から100周年を迎えましたが、約150年前に、火防などを目的に道路として整備された大通を基軸に都心のまちづくりが進められ、札幌の顔として都心は大きく発展を続けてきました。

しかし、今後は、生産年齢人口³の減少に伴う経済規模の縮小や超高齢社会⁴の到来が見込まれており、成熟社会を支えるためのまちづくりが必要となっています。

また、地球環境問題に対応した脱炭素社会⁵の実現や災害に強いまちづくりに対する社会的要請の高まり、昭和47年（1972年）の札幌オリンピックの開催を契機に建設されたビルなどの更新時期の到来、令和12年度（2030年度）に予定されている北海道新幹線の札幌駅までの延伸・開業、新型コロナウイルス感染症の拡大など、都心を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、これらを踏まえた対応を進めていくことも不可欠です。

一方で、札幌は、年間5メートルもの降雪がありながら190万人を超える人口を有する、世界的にも稀な積雪寒冷都市であり、さらには、基盤の目状に広がる街区からは、郊外に広がる森林といった豊かなみどりと街並みが融合した眺望景観を楽しめるなど、他の都市には無い札幌ならではの魅力があります。

特に、大通及びその周辺には、広大なみどりの空間である大通公園のほか、札幌市時計台といった歴史的資源など、札幌を象徴するまちの資源が多く集積しています。

札幌のまちが、次の100年も魅力と活力を創造し続けるまちであるためには、これらの価値を再認識して大通及びその周辺のまちづくりを進め、札幌のまちを形成する根幹となる歴史を備える東西軸として魅力を高めていくことが重要です。

そのためには、大通の沿道で多くの施設が更新時期を迎え、様々な開発の動きが活発化しているこの機会を捉えて、市民・企業・行政などのまちづくりの担い手がまちづくりの方針を共有し、協働してまちづくりを進めていく必要があります。

これらの背景を踏まえ、本方針を策定します。

3) はぐくみの軸まちづくりの理念

象徴性の継承と新たな価値の創造

150年の歴史ではぐくまれてきた価値を継承し、100年先の未来に向けて新たな魅力と活力を“はぐくむ”

4) 策定の目的

- 都心の東西軸としての魅力を強化していくため、開発の気運の高まりに合わせて強化方針を策定し、**大通公園などの地域特性を活かして大通及びその周辺のまちづくりを促進**していく。
- そして次の100年に向け、時代の流れに柔軟に対応しながら新たな価値を創造し続け、**札幌市民が世界に誇れる、魅力と活力にあふれる都心の実現に寄与**することを目指す。

2 【都心】「JR札幌駅北口一帯」、「大通と東8丁目・篠路通の交差点付近」、「中島公園の北端付近」、「大通公園の西端付近」を頂点として結ぶ、北海道・札幌市の魅力と活力をけん引し、国際競争力を備えた高次の都市機能が集積するエリア。

3 【生産年齢人口】15歳以上65歳未満の年齢に該当する人口。

4 【超高齢社会】総人口に占める65歳以上人口の割合が21%を超える社会のこと。なお、7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」と呼ぶ。

5 【脱炭素社会】地球温暖化の原因となる温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを実現する社会。

5) 第2次都心まちづくり計画におけるはぐくみの軸の役割

大通は明治初期に整備されて以降、時代に合わせて姿を変えながら、都心のまちづくりの基軸としての役割を果たしてきた貴重な資源です。第2次都心まちづくり計画において、はぐくみの軸は都心の南北を貫く都心まちづくりの骨格軸（札幌駅前通、創成川通）及び展開軸（東4丁目通）を東西方向に横断し、都心のまちづくりを面的に連結していく上で極めて重要な都心の骨格軸に位置付けられています。

都心の開発気運の高まりに合わせて、大通及びその周辺の資源を活かした良質な都市空間の形成を図り都心の魅力を高めていくため、はぐくみの軸におけるまちづくりの方針の策定が必要です。

<参考> 第2次都心まちづくり計画より

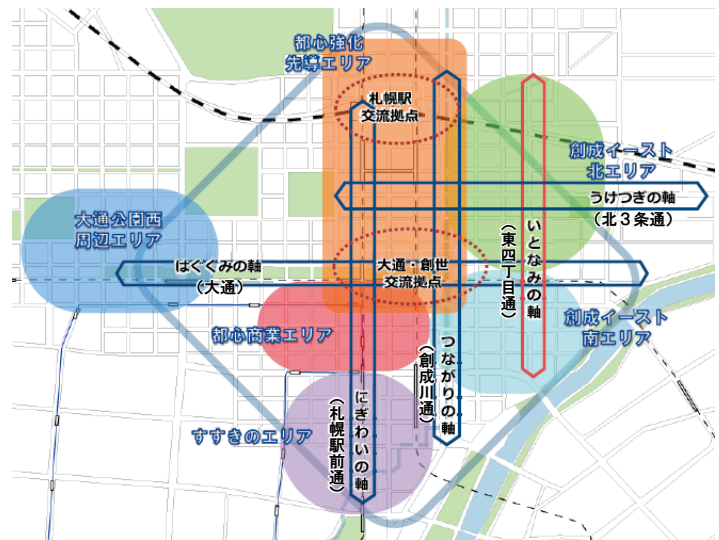
都心まちづくりの目標

- 「国内外から活力・投資を呼び込む
札幌都心ブランドの確立」
- 「魅力的なライフスタイル・ワーク
スタイルの実現」

都心の骨格構造とターゲット・エリア

- 骨格軸・展開軸
目標実現に向けた様々な取組を促進するための基軸
- 交流拠点
新たな活動や交流を生み出し都心全体のまちづくりを先導する拠点
- ターゲット・エリア
骨格軸・展開軸・交流拠点と連動して面的な広がりでもちづくりを展開すべき地区

■都心の骨格構造とターゲット・エリア



<資料> 札幌市

はぐくみの軸の展開指針

- 大通沿道の特性に応じたみどりの空間と活用空間のメリハリのある空間の創出
- 沿道空間と一体となった中核的な公共的空間としての大通の実現
- 都心東西のエリアをつなぐ、札幌の都市文化、価値を体感できる空間の創出
- 創成川より西側のにぎわいを東側まで波及させる連続性のある空間形成

■大通の軸形成のイメージ図

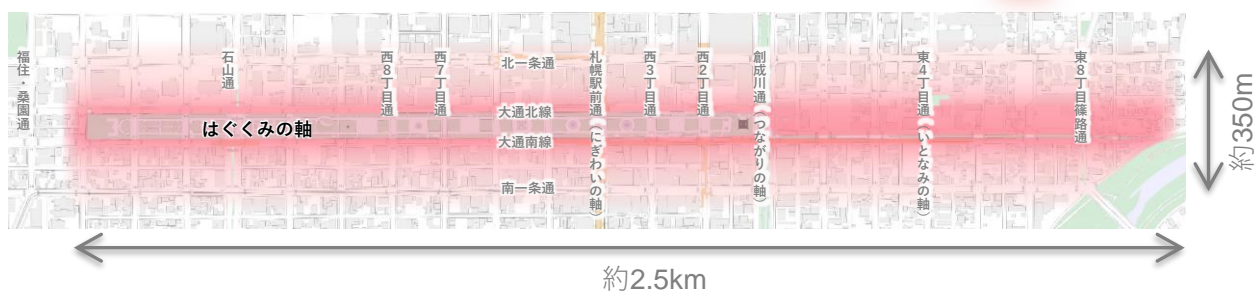


<資料> 札幌市

1-2. 対象エリア

本方針の対象エリアは、東西方向は第2次都心まちづくり計画上の都心の西端から東端までの約2.5km、南北方向は大通沿道の概ね南北1ブロックの約350mで囲まれたエリアとします。

：対象エリア

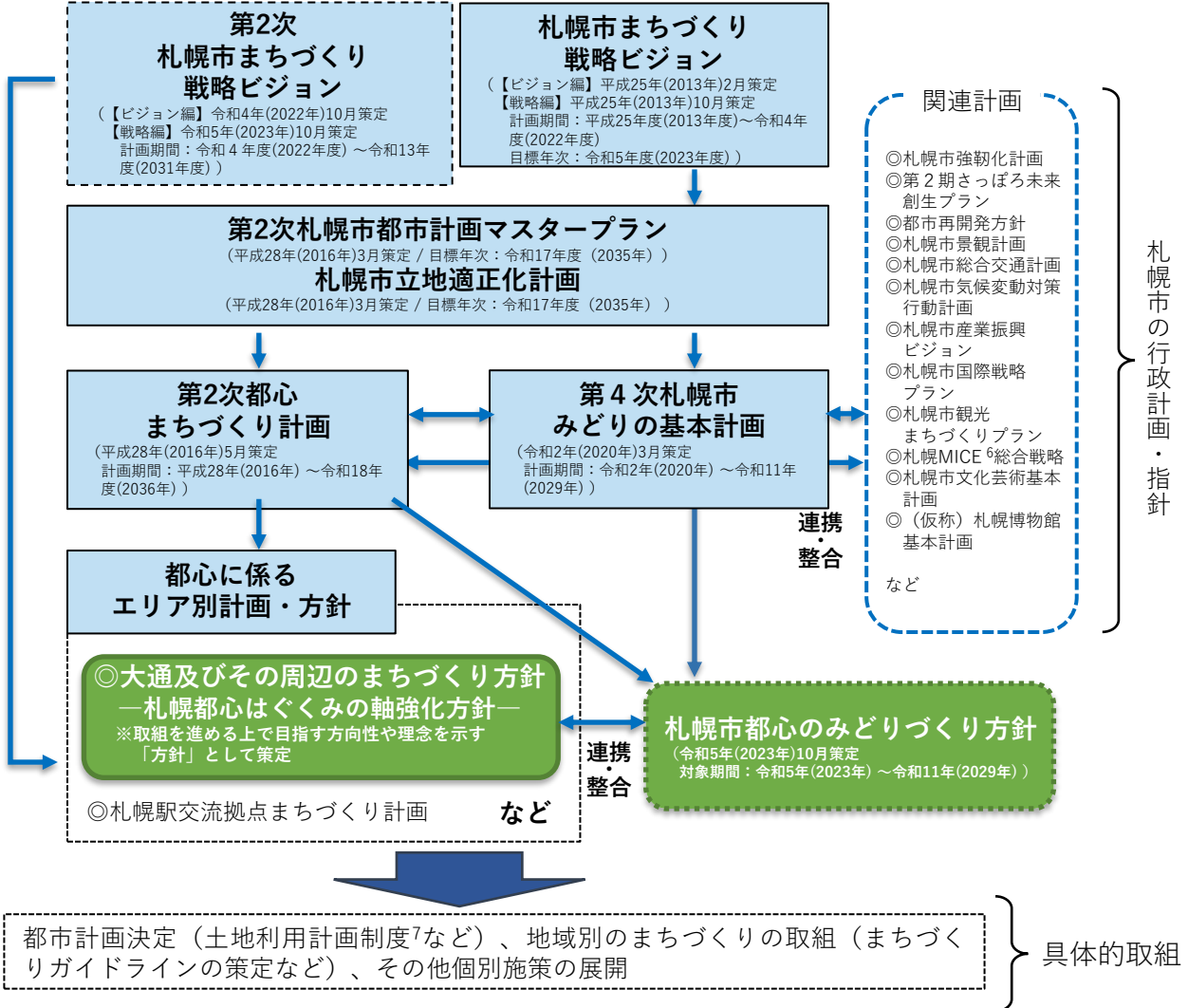


1-3. 位置づけ

第2次都心まちづくり計画は、札幌市まちづくり戦略ビジョンを踏まえて策定され、このうち都市空間に係る部分については、第2次都市計画マスタープラン・札幌市立地適正化計画を上位計画として位置付けています。

本方針はこの第2次都心まちづくり計画を踏まえ、都心にかかわるエリア別計画・方針の一つとして定めます。

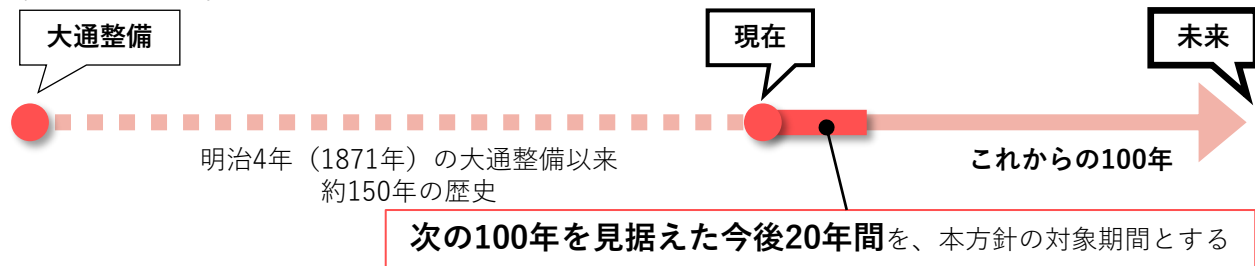
また、みどり豊かで魅力的な都心の形成に向けて目指すべき将来や取組の方針をまとめた札幌市都心のみどりづくり方針と連携・整合を図っていきます。



1-4. 対象期間

本方針の対象期間は、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンが2040年代を見据えた内容とすること、また、第2次札幌市都市計画マスタープラン、札幌市立地適正化計画、第2次都心まちづくり計画が策定から概ね20年を目標年次・計画期間としていることを踏まえ、策定から20年とします。

100年先の未来を見据え、今後20年間で実現したいはぐくみの軸の将来像と、取組の方向を本方針で提示します。



6 【MICE】多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。Meeting（会議・セミナー）、Incentive tour（企業報奨・研修旅行）、Convention（大会・学会・国際会議）、Exhibition（イベント・展示会・見本市）の頭文字を取ったもの。
 7 【土地利用計画制度】まちづくりの諸施策のうち、都市計画法に基づく制度の一つであり、土地利用に関するルールを定め、個別の建築行為などを規制・誘導することによってまちづくりの目標の実現を図るもの。